Unit 19 仮定法過去完了

仮定法過去完了は「もしA でなかったらB であっただろうに」というような過去における仮想の状況を設定し、そのなかで想像の世界を繰り広げる表現です。視点は過去に置いているものの、テンス・アスペクトは過去完了を用いることから「仮定法過去完了」と呼ばれるわけです。過去完了形の仮定法は、傾向としては、「残念な気持ち」や「ありがたいという気持ち」を表現します。「もしあのときに～していたなら、……ではなかったのに」というのが「残念な気持ち」で、「もしあのときに～がなかったなら、……という状況になっていた（～があったおかげで、……の状況は免れた）」というのが「ありがたいという気持ち」にあたります。

例えば、If she had not called me, I might have overslept. （彼女が電話をしてくれなかったら、寝過ごしてしまっていただろう）のような文では、彼女が電話をしてくれたから、寝過ごさなくてすんだという解釈が成り立つことから、ありがたいという気持ちの表明としてとることができます。一方、If you had left 20 minute earlier, you would not have missed the plane.（20 分早く出発していたら、飛行機に乗り遅れることはなかったのに）は「残念な気持ち」を表現しています。

仮定法過去完了を伴う状況設定に続くのは「主語＋ would have done」だと考えられていますが、必ずしもそうではありません。if it had not been for... （もしあのときに～がなかったならば）を例に用法をみてみましょう。）

If it had not been for your mother, you wouldn't be here.
（もしあなたのお母さんがいなかったら、あなたはここに存在しなかっただろう）

If it had not been for the agent, she would've gotten the contract.
（その代理店がなかったなら、彼女はその契約にこぎつけることもなかっただろう）

最初の例のように、if it had not been for...のような仮定法過去完了だからといって帰結文は「主語＋would have done」になるわけではありません。if 節では過去に視点を置き、主節では現在に視点を置いた語り方が可能だからです。

例えば、If she had not called me then, I would not be here now. では、then が過去を示し、now が現在を示すように、「もし彼女があの時電話してくれなかったなら」は過去に視点があり、「私は今ここにいなかっただろう」は現在に視点があることになります。